

本日の日本株式の下落について

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

31日の東京株式市場で日経平均株価は大幅反落し、前日比325円20銭(3.55%)安い8,824円06銭で取引を終えました。心理的な節目となる9,000円を再び下回ったほか、25日につけた年初来安値(8,845円)を下回りました。政府・日銀による経済・円高対策の効果が限定的との見方が広がる中、取引時間中に円相場が1米ドル=84円台前半まで上げ幅を拡大したことが嫌気されました。

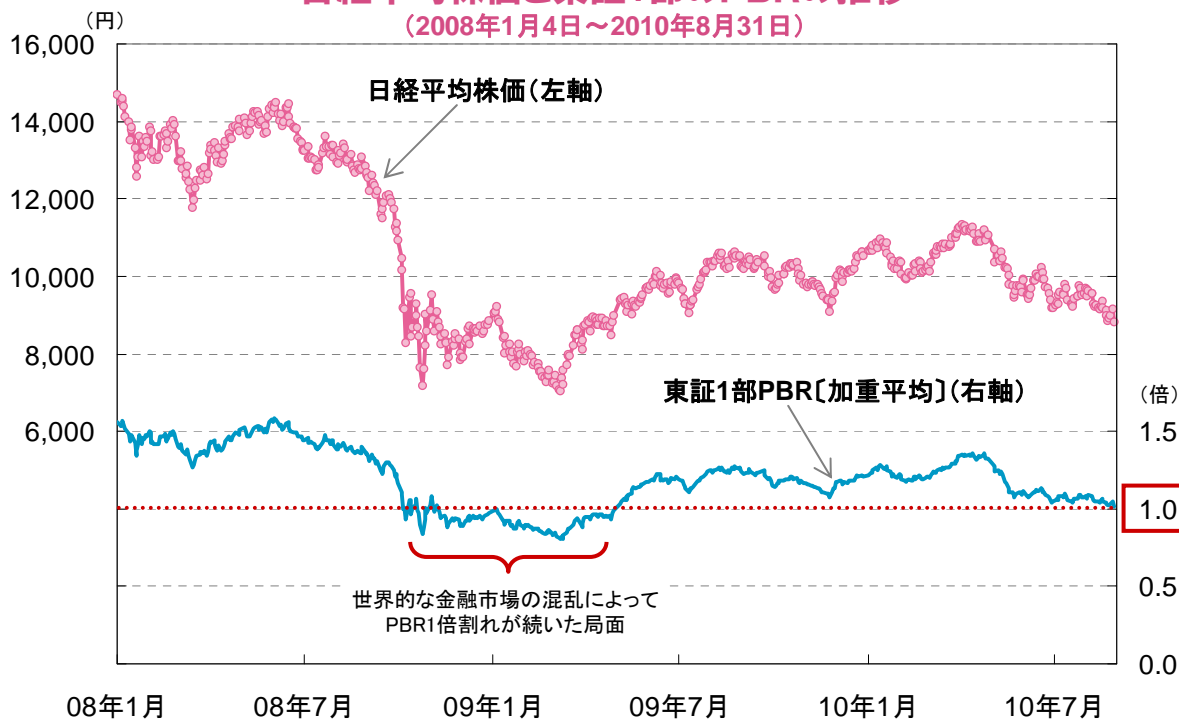
足元の円高・米ドル安の進行は、米国景気の減速懸念が高まっていることによる米ドル売りの側面が強いとみられていることから、市場では今週末に発表が予定されている8月の雇用統計をはじめとした米国の経済指標の内容次第では、一段と円高が進むのではないかと警戒感が売り圧力となっているようです。一方、一部の株価指標面では、割安感が強まってきています。東証1部のPBR(株価純資産倍率)は、約1.02倍(8月31日※)と、理論上の解散価値まで低下しています。2008年秋以降の、世界的な金融市場の混乱時には、PBRが1倍を割れましたが、一般的には、PBRの1倍水準は、株価の下限であると考えられています。株安・円高の流れがどこで反転を迎えるのか見極めることは難しい状況ですが、PBRからみた株価はひとつの下値目処に近づきつつあると考えられるのではないのでしょうか。

※8月30日の東証1部のBPS(1株当たりの純資産)をもとに、8月31日のPBRを日興アセットマネジメントが算出

PBRIは、企業の持つ資産に注目した指標で、企業の1株当たりの純資産に対し、株価が何倍まで買われているかを表したものです。企業の純資産は、「解散価値」を意味するといわれていることから、PBRが1倍に満たない状態は、「株価が会社の解散価値を下回っている」状態であり、理論上割安な水準にあるとみられています。

日経平均株価と東証1部のPBRの推移

(2008年1月4日～2010年8月31日)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。